

型と、行政主導の誘導型の説明を受けました。

協議会型は、既存の集落のコミュニティを維持し、一人ひとりの全ての希望を話し合いで決めるので時間はかかるが、十二分に議論を尽くすことで、より良い移転が進んでいると感じました。また、担当者からもやりがいを感じる事業だったと説明を受けました。

誘導型は、行政が一団地を造成し、従来のコミュニティに関係なく、公募による移転を進めるものです。

【岩手県陸前高田市】

2日目の陸前高田で復興の状況を視察しました。2年前には巨大なコンベヤーで隣接する山から土を搬入していましたが、その工事も終わりましたが7〜11mの盛り土がされ台地が整備されていました。

しかしながら、住宅の建設は行われておらず、未だに住民が帰ってきていない状態で、復興が進んでいない現状がありました。



海岸近くを通る国道の東側から西側を。右側(山側)には盛土が続いている。左側(海側)は公園区域で盛土はしていない。

【東松島市野蒜地区】

野蒜(のびる)地区、荒浜地区、閑上(ゆりあげ)地区は、海岸線は防潮堤の整備が進められていました。その内側で

は従来の住宅地は建築が規制され、農地やメガソーラーが整備され土地の有効利用を行うことで地域の雇用、土地の有効利用を図っていました。野蒜地区は集団移転も進んでおり、住民の声を聞き、地域の絆を重視した持続的、安定的に生活できる景観や住民感情に配慮した整備がされています。

全ての移転事業が多額の国費で行われており、造成工事も進み、住宅も次々に建築されていますが、国の支援がなければここまでは進まない事業だと感じました。

【宮城県女川町】

女川(おながわ)町では語り部による体験談を聞くことができました。その中でも、復興に大きく影響をし、欠かせなかったものが若者の力です。商工会の青年部が中心に活動し、街の復興、活性化に役立っています。その時、年配者は心を広く持ち若者に任せることが大事ですと話されました。「還暦を過ぎた者は口を出すな」と激しい言葉も受けたそうです。それは自分たち若者に任せてくれという意味です。その結果、若者の発想力や行動力と年配者の経験が相まって一段と復興に輪をかけて進んでいること、地域のコミュニティが深く強くつながっていると感じた話でした。それがその組織や、地域をまとめ、引っ張るリーダーが必要と認識させられました。

リーダー育成に努め、各コミュニティ力、組織力を強めていく必要があると感じた研修でした。

新設された鉄道の駅



右下は、整備の進む商店街。レンガ通りの向こうには新しい鉄道の駅が見える。



26Pにも関連記事があります。



現在の日射量 8844 kW/m²

現在の発電電力 1388 kW

本日のCO₂削減は 杉の木 888 本分に相当します

野蒜地区に設置された太陽光パネルは1万4千枚に上り、一般家庭600世帯の年間使用電力量を発電する。